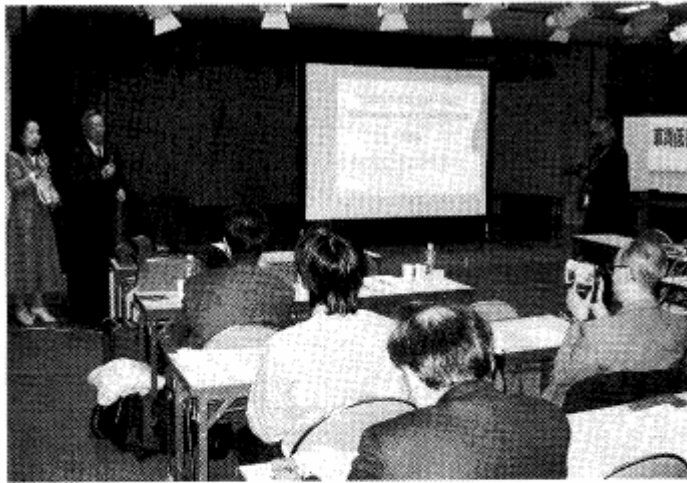




中国からは車両低公害化の最前線とエネルギー事情を報告

コープ低公害車開発は十一月十八日、神奈川県横浜市のユウホールで中国・韓国の第一線で活躍する研究者らを招待し、「車両低公害化推進のためのシンポジウム」を開催した。日本からは、東京理科大学薬学部の武田健教授が「ディーゼル排出ナノ粒子の健康影響」、伊藤忠エネックスの古田洋二・低公害エネルギー部長が「LPG自動車普及とCO2削減・高率化実現

車両低公害化へ シンポジウム

DME混合で新LPG燃料

伊藤忠エネックスが補助事業で実験

LPG車を低CO₂排出の「先進型低公害車」に改良し、全国で二十万台の普及をめざす行動計画が進んでいる。燃費効率の良いエンジン開発と並行して、燃料についてもプロパン部分をDME燃料に代替した新たな「クリーンLPG」の開発が始まった。コープ低公害車開発主催のシンポジウムで明らかとなった。

LPG車を先進型低公害車に

のために、いすゞ中央研究所の西村輝一郎部長が「クリーンディーゼルの将来技術」をテーマに報告した。古田部長は、今年度のLPG車調査補助事業の一環として、LPGのプロパン部分をDME（ジメチル・エーテル）燃料に代替し、一層の環境負荷軽減を図る「DME混合利用」を検証を進めていることを明らかにした。自動車用LPGは、石油由来のプロパンとガスのプロパンが半々。DMEを混合することで、今までのLPGとは異なる新たな「クリーンLPG」の実験を進

め、新燃料として普及することでLPG価格の低下やDMEの有効利用に役立てていくという。

LPG業界では二〇一〇年までのLPG車・二十万台普及に向けてアクションプランを策定し、LPG車を「低CO₂排出の先進型低公害車」に生まれ変わらせることを目標としている。同プランでは「LPGガスの今の普及には自動車と厨房以外にはありえない」とし、具体的な行動として国や自治体に「クリーン自動車」としての認知を求める強力な働きかけを行うと同時に、生協・宅配に続く「第三勢力」の育成・発掘を図っていく。中国からは上海交通大・燃焼&環境技術センターの黄震教授が、中国・全国清潔汽車行動協調調導小組の王秉剛組長、

ハ）大学機械工学部の李大燁氏が来日した。

中国の黄教授と王組長は、同国での車両低公害化研究の最前線と、石油に代わる将来のエネルギー需要への対応や低公害車普及に向けた最新情報などを報告。

国内メーカーによるハイブリッド車開発への意欲は高く、第一自動車と東風が乗用車、長安がハイブリッド試験車などを開発している。

生協流通新聞 2005年12月5・20日合併号

日中韓 車両低害化 シンポジウム開催

コープ
EV



古田洋二郎長

コープ低公害車開発（横浜市、小林勉社長）は11月18日、恒例の「車両低害化推進のためのシンポジウム2005」を開催したが、国の普及目標であるディーゼル代替LPガス車26万台普及に向けての取組など、日中韓の専門家を講師に招いて、LPガス車・CNG車・DMF車などを中心に今後の低公害車普及の進め方について熱心に勉強した。

古田洋二「伊藤忠エネクス低公害エネルギー部長は、『京都議定書目標達成のためのLPガス普及とCO₂削減・高効率化の実現』と題して講演、『LPガスは燃料特性がよいというだけでは、もはや他の低公害燃料との競争には勝てない。業界が自信をもって普及に取り組み

は閣議決定された京都議定書達成目標のなかにしっかりとリンクされている数字であることを認識し、LPガス車を先進型低公害車に生まれ変わらせるための技術開発の支援が今後最も重要であるとした。

このほか、中国からは「北京市の路線バスは2500台以上が走行、2008年までに4000台まで増加する計画。上海ではLPガス・ガソリン両用タクシーは3万7000台に達しており、今後も伸びが見込まれる」と、また韓国では「LPガス車は180万台以上。オートガスターが従来比で18倍上がり、LPガス車の増加が鈍っている状況である」との報告があった。

2005年12月6日 プロパン産業新聞

先進LPガス車普及へセミナー

LPガス自動車普及促進協議会は、東京トラックショーで来年早々にも発売される先進LPガス車について、ディーゼル側からディーゼルハイブリッドを比較すると、LPガス車

の迷惑になる③燃費が悪く、思ったより費用的な効果がない④燃費がでない⑤などの点をあげた。

日産特販からは、営業支援部の玉井湧部長が「今使えるCO₂削減に役立つ先進LPガス車」について講演。

従来のミキサー方式から電子制御で気体を噴射するVPIシステムへの

ハイブリッド中心に二万台まで導入を予定しているCO₂削減を実現できると同じ性能でそれを上回るCO₂削減を実現できるといった。

気体噴射システム採用

開発メーカーが直にPR

者が講演した。

コープぎふ・企画管理部長総務管財グループの新リッドはCO₂削減で最も良いという。現状では、Gトラックについて「燃費が悪すぎる。エンジンハイブリッドを評価しての改良が進んでいない」と指摘。具体的な問題として、①台風のときにエ

玉井部長は、「CO₂削減に最も完全な答えを出すクルマ」であり、「生協の皆様に乗っていただく」と語った。



有利性を訴える日産特販の玉井部長

単位でCO₂を減らすたがなく、山道で後続車め、今後はディーゼル

2005年11月5日 生協流通新聞

車両低害化シンポジウム コープ低公害車開発

LPG、ディーゼルの新技術報告



シンポジウムには生協、関係会社から約90人が参加

コープ低公害車開発はこのほど、「車両低公害推進のためのシンポジウム2005」をユウホール（横浜・市港北区）で生協、関係会社など約90人の参加のもと開催した。今回は、ディーゼル排出ナノ粒子の健康影響、エンジンの新技術、中

国、韓国の動向、さらにコープ低公害車開発の15年の歩みなど、企業、研究者など7人を講師に講演を行った。冒頭あいさつにたったコ

▽「LPG自動車の普及とCO₂削減・高効率化実現のために」伊藤忠エネクス・低公害エネルギー部長古田洋二氏。現在、資源エネルギー庁の調査研究事業であるCO₂削減LPG車の高度化調査やDME+LPGの混焼実験、LPG容器輸出入に関する調査の進行状況など最新情報を報告。LPG業界の有志企業の取り組みを通じ、京都議定書目標達成への基本的な考え方、2010年にLPG車26万台普及に向けて先進型LPG車など新たな技術開発で可能性を開くと語った。

▽「グリーンディーゼルの将来技術」いすゞ中央研究所部長西村輝一氏。ディーゼルエンジン研究開発の第一人者の見解としてDME、GTLなどの代替燃料を含め、ディーゼルエンジンの研究開発の最前線を報告。

▽「中国におけるエネルギー問題と低公害車普及の活動」上海交通大学・機械工学部／燃焼環境技術セン

ター黄震教授。中国での車両低公害化の第一人者である黄教授の最新の中国での研究開発状況を解説。エネルギーと環境への影響を最小限にするためDMEプロジェクトの進行などを報告した。

東京理科大学・武田健教授 報告
ディーゼル排ガスのナノ粒子
胎児の脳神経、生殖系に影響

テラストロン値変動、精巣組織像の悪化、精巣特異的遺伝子などが認められた。観察された機能変化のうち、ナノ粒子の影響がどこまで及んでいるか、今後の研究課題である。

今話題のアスベストの問題と比較してみると、アスベストが肺にとどまっているのに対し、ナノ粒子はその奥まで入り込んでしまうもの。子供たちにどう影響し、何が起るか。環境への影響も含めて慎重に見ていかなければならない。

2010年には25兆円、ゼル排ガス中のナノ粒子が母マウスから胎児に移行し、胎児の脳血管や精巣血管を通り抜けること。その粒子は出世後も仔の特定の細胞のオルガネラに蓄積された状態で残り、周辺の細胞に影響を及ぼす可能性を示す結果を得た。

出生した雄のマウスは一日精子生産量の低下、血中

